

1 事業総括

29年度の年間利用総延日数は、就労継続B型においておよそ14%減少しており、平成26年度をピークに、延べ利用者数は減少を続けている。この要因は複数の利用者が疾病の悪化、精神障害や知的障害を背景とした生活状況の変化により、通所が難しくなったことが大きい。

29年度、利用者の約8割は精神疾患を抱えているが、作業やプログラムを通じて、利用者の日々の状況を細かくとらえ、関係性を深めながら、必要な助言を行っている。このことが利用者のスキルアップのみならず、社会とつながり、居場所と役割を見出し、自信回復へとつながっている。また、利用者に提供する作業は途切れることなく、安定した日課提供を維持している。これは、依頼先と各種の調整を行いつつ、技術向上、信頼関係の醸成が一段と図られたことによるものが大きい。

相談支援事業においては、適切な支援計画の作成により、関係機関との連携を深めることで順調な運営を行うことができた。

みのり舎においては施設環境整備を実施した。新たに居室賃貸を行い、事務所と面接場所の完全分離を実施し、プライバシーや個人情報保護への対応を図った。事務スペースの拡充、机や什器の設置により、快適で効率的な事務環境を整えることができた。また、生活訓練室を7階に配置し、使いやすく居心地の良いスペースを創出しており、職員意見を集約し、「多くの利用者が毎日でも通いたい施設」とするための取り組みを行っている。

	定員		29年度実績							28年度実績				
			年度末在籍者数			利用総延人数				年度末在籍者数		利用総延人数		
就労継続B	20人		25			3,795				31		4,408		
生活訓練	6人		7			360				7		310		
総延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日平均	
就労継続B	340	346	366	344	345	306	329	294	285	285	271	284	18.1人	
生活訓練	16	19	23	27	35	29	30	30	23	31	43	54	1.3人	

29年度実績	受託数	利用計画作成	モニタリング作成数
相談支援事業	2名	8件	34件

2 主要目標に対する成果

(1) 作業を通じての生活能力向上・自信回復への支援

本年度、関係各所との緊密な調整により、作業はとぎれることなく提供された。また、そのバリエーションも多様なものとなり、利用者の障害や能力に応じた作業指導を行っていく中で、各利用者の能力向上が図られ、社会とのかかわりの中で、自信回復へとつながっている。

(2) 日常生活を整えるための支援と他者との交流促進

各利用者の状況に応じて、保健衛生面などの生活管理、金銭管理への助言など、提供するサービスは多岐にわたった。職員は、作業や生活訓練等を通して、利用者の細かな変化を捉え、利用者本人への心情の配慮、必要な情報提供、対人関係への助言等を行っている。また、生活訓練プログラムを通して、施設外への見学を行ったり、カラオケ会を行うなど、利用者間の交流が深まる機会を提供した。これらのことが、利用者の孤立を防ぎ、他者との適切な交流促進に寄与している。

(3) 障害者相談支援事業の実施と、地域資源紹介

細やかな対応で、本人ニーズを大切に利用計画を作成するとともに、必要な地域資源の情報提供を実施。関係機関等と十分な連携を行いつつ、円滑な相談支援事業の進捗を図った。

(4) 施設環境整備の実施

29年度は、新たに1居室を借り上げ、事務所と面接室の分離、生活訓練室の整備、作業スペースの拡充を図った。これに伴い、各職員に事務机を配置し効率的な事務環境を整えるとともに、作業や支援環境においても、利用者ニーズの多様化に対応できる環境を整えることができた。

3 運営管理	
<p>(1) 就労継続支援 (B型)</p> <p>利用者が減少している中でも、内職作業は前年と変わらない受託金額であった。これは利用者のスキルアップを反映する一面でもあり、前年を大きく上回る内職ボーナスを支給することができ、利用者のモチベーション向上にも寄与することができた。</p> <p>(2) 自立訓練 (生活訓練)</p> <p>利用者ニーズに応じて、日常生活への支援 (身だしなみや清掃、衛生維持、金銭管理などの方法提案等)、健康管理 (服薬確認や服薬継続への意識づけ) といった生活全般への支援を実施した。また、自主製品の作成に関して、企画・作成も行った。</p>	
4 保健衛生・環境整備	
<p>(1) 利用者の健康・栄養管理</p> <p>①利用者の欠席があった日には、電話での安否確認を行い、電話相談等も行った。</p> <p>②手洗いうがい・マスク着用を呼びかけ、感染症予防のため必要な情報提供を行った。また、休日のリフレッシュ等、余暇も含め、心身の健康維持に必要な支援を実施した。</p> <p>③希望者には、栄養に配慮した給食サービスの提供を行った。</p> <p>(2) 施設内外の環境整備</p> <p>①利用者自身が室内清掃を行うなど、作業環境維持への責任と自覚をもてるように促している。</p> <p>②定期的に地域の公園清掃やみのり舎周辺の道路清掃を行うなど、地域の一員としての自覚をもち、地域環境美化に努めた。</p>	
5 施設の社会化 (地域交流事業)	
<p>(1) 地区センターにおいて、みのり舎の自主製品を販売するなど、地域行事への参加を行った。また、町会活動に参加し、地域清掃等を行っている。</p> <p>(2) 職員は地域で行う防犯パトロール等に参加するとともに、警察署との情報共有を行い、振り込め詐欺等の情報について、利用者との共有を行った。</p> <p>(3) 大学、同種事業所等から実習生を受け入れ、障害分野の理解を深めるための啓発を行った。</p> <p>(4) 新宿区内の障害者支援事業所による会議体などに参加し、ネットワークの構築と情報共有を実施した。会議体においては区の精神保健福祉事業への要望書を作成するなど、情報発信を行った。</p> <p>(5) 緑化事業において、熱帯植物園の視察見学を実施。また、お台場公園でのバーベキューレクリエーション、クリスマス会、けやき荘との合同でもちつき会等を行った。</p>	
6 福祉サービス第三者評価 評価結果	
<p>評価機関 : 特定非営利活動法人NPOサービス評価機構 実施期間 : H29. 1. 18~H30. 3. 11</p>	
<p>全体講評 :</p> <p>特に良いと思う点</p> <p>① 独自の商品開発や作業などを通じて、利用者のやる気を引き出し、安定した地域生活を送れるように支援している。</p> <p>② 緑化事業委員や清掃作業リーダーを任命するなど、利用者主体の取り組みを行っている。</p> <p>③ 定期的に地域の清掃を行うなど、地域連携に積極的に取り組んでいる。</p> <p>さらなる改善が望まれる点</p> <p>① 業務遂行にあたって必要なマニュアル・手順書の整備が望まれる。</p> <p>② ヒヤリハットの定義とその活用について、職員へ周知していくことが望まれる。</p> <p>③ 障害者支援のスキル向上に向けた教育体制の整備が望まれる。</p>	<p>施設コメント :</p> <p>利用者調査の結果において、みのり舎は高い評価を得ることができた。これは、各利用者の個性を活かし、抱える障害の理解に努めたことが大きい。また、通所する利用者の生活リズムを整え、個々のスキルアップ、自信回復につながっていることが第三者評価の視点からも、認められたものと捉えている。</p> <p>改善が望まれる点は、各職員のスキルアップや、知識・経験・技能の継承に関わることであった。みのり舎は、法人内唯一の障害福祉サービス事業であり、その個別性を法人内で共有していくためには、講評通りの対応が求められている。</p>